

「広島神楽」定期公演へようこそ!

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます。
当公演では、全てのお客様に気持ちよく神楽を鑑賞していただくため、下記のルールを設けています。
ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

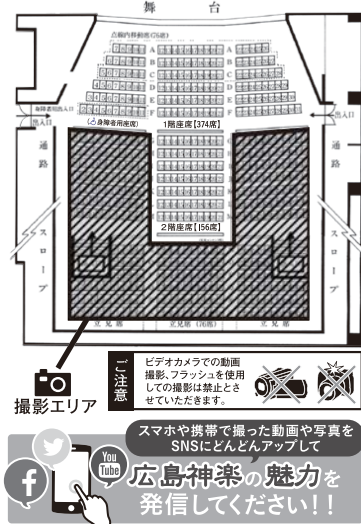
- (1) 座席での**飲食は出来ません**。ロビーをご利用下さい。
- (2) 上演中の立ち歩きや大声での私語など**他のお客様のご迷惑になる行為**はご遠慮下さい。
- (3) お子様連れの方は、お子様が舞台の前に出られると、演出等で**危険な場合**がございます。**着席**での鑑賞をお願いします。
- (4) 撮影について

→写真撮影は右図の**撮影エリア**で行って下さい。
※ビデオカメラでの**動画撮影**、**フラッシュの使用は禁止**します。
(マスコミ関係など主催者の許可を得ている場合を除く)

以上です。どうぞ、最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

撮影エリアについてのご案内

写真撮影をご希望の方は必ず、下記の撮影エリアでお願いいたします。



4月13日のタイムスケジュール

出演：鈴張神楽団（広島市）

19:00～開演

19:05～第一幕『紅葉狩』
(およそ40分)

～幕間(休憩)～

20:00～第二幕『戻り橋』
(およそ40分)

20:45～記念撮影会

衣装やお面を実際に見ていただき、記念撮影をしていただけます。携帯電話での撮影も大歓迎です。
本日の記念に是非ご参加下さい。
また、神楽団との交流もしていただけます。疑問に思ったことなど、直接団員にお聞きください。
(舞台へは靴を脱いでお上がください。)
※記載の時間は目安です。多少前後する場合がございますので、あらかじめご了承ください。

すずはりかぐらだん

鈴張神楽団プロフィール ～広島市安佐北区～

鈴張神楽団は昭和26年に地元の方によって結成されました。

神楽団結成から、衣装や道具などは全て地元の方々の寄付によって揃え、毎年秋に行われる宮崎神社での秋祭りを中心に、
地元根付いた活動を行っています。

今年になり、若い団員も増え、三度目の世代交代を迎えている今、神楽奉納を通して神楽に息づく先人たちの思いを受け
継ぎ、後世へと伝えていけるよう団員一同精進したいと思います。

第一幕『紅葉狩』(もみじがり)

平安時代、京の都を追われ信州・戸隠山へと流罪となった紅葉という女がいました。戸隠の里に心穏やかな日々を過ごしていましたが、都の暮らしに思い断たれず、身につけた妖術で近隣の村々を襲い、その手はその名・紅葉の如く血に染まっていきました。

その頃、中納言・平維茂は、都を離れ三河・遠江と狩りの旅に興じ、戸隠山の錦に心奪われ道に踏み迷ってしまいます。道を尋ねる里人を求める主従の前に一軒の山家が現れ、女主の誘うままに紅葉狩の酒宴に杯を重ねます。

維茂主従が酔いつぶれると、時は今と女たちは黒髪を振り乱し、夜叉となり、主従に飛びかかります。

維茂の一命が危うきとき、日ごろから信心する八幡大菩薩が現れ難を救います。神剣を授かった維茂主従は、鬼の岩屋で激戦の末、戸隠の鬼女を見事成敗するという物語です。

【出演】	大太鼓 … 橋原 慎也	平 維 茂 … 山 中 数 人	紅 葉 … 竹 迫 正 棋
	小太鼓 … 橋原 義則	従 人 … 栗 栖 幸 司	梗 … 石 川 昌 士
	手打鉦 … 大本 彩	八幡大菩薩 … 藪 本 司	蒲 … 吉 田 和 哉
	笛 … 沖 川 菜 祐		

第二幕『戻り橋』(もどりばし)

都の闇には怪物が現れると言われ、都人は夜の闇を恐れていました。

都の守りの要、摂津守・源頼光は都に現れる怪物を退治させるべく、四天王の一人、渡辺源吾綱を一条戻り橋へと向かわせます。

綱が辻堂に怪しい気配を感じて乗り込むと、旅の老婆が一人身を震わせ、「修行の旅の者にございますが、折悪く病を得て、これに休んでおる者でございませう。」と言います。

これを不憫に思った綱は、自らの屋敷で静養せよと案内します。道中、言葉を交わしますが、綱の身の上を知ると薄ら笑いを浮かべます。その正体こそ、丹波国・大江山の鬼神・茨木童子でした。

茨木童子は綱を打ち倒そうと掴み掛かりますが、石清水の神のお告げにより、加勢に現れた坂田金時と綱の前に左腕を切り落とされ、復讐を誓い大江山へと飛び去っていくという物語です。

【出演】	大太鼓 … 橋原 慎也	渡 辺 綱 … 石 川 昌 士	茨 木 童 子 … 住 本 政 彦
	小太鼓 … 橋原 義則	坂 田 金 時 … 吉 田 和 哉	酒 吞 童 子 … 竹 迫 正 棋
	手打鉦 … 沖 川 菜 祐		傘 売 り 善 兵 衛 … 藪 本 司
	笛 … 大 本 彩		